

第二十八回

参議院地方行政、大蔵委員会連合審査会議録第一号

昭和三十三年三月二十五日(火曜日)午後一時三十七分開会

委員氏名

地方行政委員

委員長 小林 武治君

理事 大沢 雄一君 理事 小柳 牧衛君

理事 加瀬 完君 理事 鈴木 牧衛君

伊能繁次郎君 伊能 芳雄君

佐野 廣君 西郷吉之助君

館 哲二君 佐野 廣君

本多 市郎君 成田 一郎君

岸 吉雄君 吉雄君

中田 治朗君 成瀬 秀男君

三木 占部 優治君

白木義一郎君 吉雄君

佐野 廣君 西郷吉之助君

館 哲二君 佐野 廣君

本多 市郎君 成田 一郎君

岸 吉雄君 吉雄君

中田 治朗君 成瀬 秀男君

三木 占部 優治君

白木義一郎君 吉雄君

佐野 廣君 西郷吉之助君

館 哲二君 佐野 廣君

本多 市郎君 成田 一郎君

岸 吉雄君 吉雄君

中田 治朗君 成瀬 秀男君

三木 占部 優治君

白木義一郎君 吉雄君

佐野 廣君 西郷吉之助君

館 哲二君 佐野 廣君

本多 市郎君 成田 一郎君

岸 吉雄君 吉雄君

出席者は左の通り。

地方行政委員

委員長 小林 武治君

理事 大沢 雄一君

○公営企業金融公庫法の一部を改正する法律案(内閣提出 衆議院送付)

委員

小柳 牧衛君
鈴木 韶君

〔地方行政委員長小林武治君委員長席に着く〕

○委員長(小林武治君)これより地方行政、大蔵委員会連合審査会を開きます。

大蔵委員

委員長

理事

河野 謙三君

本内 四郎君

西川甚五郎君

小笠原三三郎君

平林 剛君

天坊 裕彦君

岡崎 健一君

左藤 義説君

塙見 俊二君

栗山 良夫君

小林 孝平君

杉山 昌作君

龍田 久吉君

小林興三次君

正示啓次郎君

大蔵省理財局長

自治厅財政局長

事務局側

常任委員

会専門員

木村常次郎君

本日の会議に付した案件

○左腰義説君 この法律は衆議院の御修正がございましたので、その点でお伺いしたいのですが、これは自治厅及ぶ大蔵当局に公営企業金融公庫に短期貸付を行わなければならぬないような積極的な理由があるかどうかです。両方の御意見を伺いたい。

○政府委員(小林興三次君) 公営企業金融公庫の仕事として一時貸付をやるかやらぬかということは、これは法律になりますが、現実の実際の状況を

見てみますと、公営企業関係の何といいますか、一時借入金と申しますか、そういうものはだんだんふえていく傾向にあるようでございます。一般会計の方では、一時借入金は漸次地方財政が好転しておりますから減つております。これより質疑を行いますが、質疑はなるべく大蔵委員の諸君に優先して許可いたして参りたいと存じますので、その点あらかじめお含みおきを願います。なお答弁者としましては、衆議院の修正点について、衆議院議員吉田重延君が出席されております。また、たゞいままでの政府側の出席者は、小林自治厅財政局長、正示大蔵省理財局長、なお中島自治厅政務次官、白井大蔵政務次官が間もなく出席するはずであります。

御質疑のおありの方は順次、御発言を願います。

○左腰義説君 この法律は衆議院の御修正がございましたので、その点でお伺いしたいのですが、これは自治厅及ぶ大蔵当局に公営企業金融公庫に短期貸付を行わなければならぬないような積極的な理由があるかどうかです。両方の御意見を伺いたい。

○政府委員(正示啓次郎君) ただいまの御質問に端的にお答え申し上げますと、公庫が短期資金を貸す積極的必要性は、公営企業の運転上、こういう一時の運転資金が必要となることは当然考えられますし、そういう場合に資金の手当は、できるだけ安い金で融通してやるということが、公営企業のために一番大切な問題でございまして、一番安いのは政府資金であることは、これには間違ありません。政府資金で百パー

セント、カバーできれば問題は事実上起らないと思いませんけれども、実際

問題といったましては、なかなか理屈

見えますと、公営企業関係の何といいますか、一時借入金と申しますか、そういうものはだんだんふえていく傾向にあるようでございます。一般会計の方では、一時借入金は漸次地方財政が好転しておりますから減つております。これより質疑を行いますが、質疑はなるべく大蔵委員の諸君に優先して許可いたして参りたいと存じますので、その点あらかじめお含みおきを願います。なお答弁者としましては、衆議院の修正点について、衆議院議員吉田重延君が出席されております。また、たゞいままでの政府側の出席者は、小林自治厅財政局長、正示大蔵省理財局長、なお中島自治厅政務次官、白井大蔵政務次官が間もなく出席するはずであります。

御質疑のおありの方は順次、御発言を願います。

○左腰義説君 この法律は衆議院の御

修正がございましたので、その点でお

伺いしたいのですが、これは自治厅及

び大蔵当局に公営企業金融公庫に短期

貸付を行わなければならぬないよう

な理由があるかどうかです。両

方の御意見を伺いたい。

○政府委員(正示啓次郎君) ただいまの御質問に端的にお答え申し上げますと、公庫が短期資金を貸す積極的必要性は、公営企業の運転上、こういう一時の運転資金が必要となることは当然考えられますし、そういう場合に資金の手当は、できるだけ安い金で融通してやるということが、公営企業のために一番大切な問題でございまして、一番安いのは政府資金であることは、これには間違ありません。政府資金で百パー

セント、カバーできれば問題は事実

上起らないと思いませんけれども、実際

問題といったましては、なかなか理屈

いう規定がござります。この第一条の規定から申しましても、公営企業金融公庫の分野と申しますものは、地方の公営企業の必要とする資金のうち、いわゆる長期の地方債につきまして低利で安定した資金を供給する、こういうことにあるわけであります。そこで現に旧指定団体、東京とか大阪のようないくつかの団体につきましては、七分六厘という比較的の低利の長期資金を供給いたしております。そういうたためにこの公庫を設けたのであります。

そこで、ただいま自治庁から申し上げましたような短期資金を必要としております部面につきましては、これは直接政府資金をもしまして、一錢八厘といふ低利で供給するのが本來の建前でございますし、またこれにつきましては、ただいま、いろいろ数字をあげて御説明ございましたが、簡易保険資金なり資金運用部資金というものは、現に私どもの予定しておりますものの六割くらいしか使われておりません。四割くらいは余つておるわけでござります。それはいろいろ事情もございましょうが、私どもといいたしましては、先ほどおあげになりました数字を見ますと、年を追うて政府資金の割合が高まつております。この割合を一そり高めまして、短期資金というようなものはそういうルートから供給すべきものと心得ております。そして今おあげになりました市中金融機関といふものは、これはビジネスの関係がございまして、預金をしたりいたしますものですから、そこからまた金を借りるとい

さいますが、これらのことも、本来公団体の財政を健全化するという見地から申しますと、あまり好ましいことはございませんから、短期資金は、私どもは政府資金でストレートに、間接的なマージンを取らず、従つて低利に供給していく、これで事足りると考えておる次第であります。

○左藤義詮君　ただ今自治庁のお話では、地方公共団体は現在非常に高利な民間資金を相当に借り入れているということで、この短期資金の貸付も行なつた方がいい、こういう御意見ですが、大蔵省の方は、政府資金の預金部なり簡保なりでもう相当余裕があるのだから、どんどんこれを進めていったらいい、こういうお話をございますが、どうもそれがうまく行っていない、ということは、何が政府資金の貸し出しを特に抑制しているような事実があるのか、あるいは、いわゆる官僚主義なり簡保なりでもう相当余裕があるのだから、どんどんこれを進めていいはずか。そんな余裕があるなら、なぜ実際地方の困っているものに政府資金をお回しにならないのですか。

○政府委員(正示啓次郎君)　ただいま申し上げましたように、たとえばこれは昭和三十二年度におきます地方公共団体への短期貸付の状況を数字について申し上げますと、貸付ワクをいたしまして四割くらいの余裕が出ておりまます。これはやはり私どもいたしましては、全体として從つて資金としては非常に不足しているというふうに

は考えておりません。ただ、どうして
保険資金を使っておられるようあります。簡易保険資金の方が比較的近寄
りやすいということになつておつて、
そうして私どもの方の財務局財務部に
参られるときには、比較的むずかしい
ものを持ち込んでおられるようござ
います。そこでいろいろこちらとして
も申し上げまして、将来のことをいろ
いろ御注意申し上げるというふうなこと
が多いので、つい多少金利が高くて
もというようなことで、ほかへ回られ
るというようなこともあるようござ
います。しかしこれはほんとうに、や
はり私申し上げたように、地方公共團
体の財政健全化の見地から好ましくな
いところでござりますから、私どもは
機会あるごとに、出先の第一線の者を
集めまして、ほんとうに親身になつて
公共團体の立場に立つて融資を取り計
らうように、もとより、それは無条件で
にどこでも貸すということではござい
ませんが、必要な資金を、しかも当該團
体の公営企業の将来のことを考え
て、最も効果的に金を貸すように、こ
ういうふうに申し上げているわけでござ
います。そこで、そういう点につい
てなお至らぬ点がござりますれば、こ
れは政府部内の問題でござりますから
、自治庁も地方についていろいろ
と第一線からの資料を取つておられる
わけでございますから、具体的に部内
において十分戒しめ合つて参りますれば、多少今日円滑化を欠いているよう
な点がありますても、これを除去する
ことはさして困難なことではない、か
のように考えておられる次第であります。

のを郵政省にやらせるかどうかといふので、非常に国会でも問題になつたのですが、やつてみますと、今のお話でも、簡保の方はなかなかお客様が多い。どうも財務局に行くと、いろいろなむずかしいことを言つて、金を貸すような顔をして、一方ではいろいろ小さな貯蓄をして、十分国民の大手事な貯蓄であるその運用部資金がもつと公営企業の方にスムーズに行くよう努力する——実際努力が足らぬからも、第一線を督励して、十分国民の大手事な貯蓄であるその運用部資金がもつと公営企業の方にスムーズに行くようこういう問題が起るのだと思いますが、これは非常に今後の運営において今のお話をもつと実行されるよう期待しますとともに、一方、こういうふうに思うのですが、監督官厅としては、政府資金よりも高利な公庫に短期貸付を認め、公的機関が重複するようなことになり、いかにも私利だなようには、政府資金よりも高利な公庫に貸付を認め、公的機関が重複するようになりますが、これに対して自治金を、しかも余裕があるというのですから、それを活用させるように指導すべしだと思いますが、これに対する御意見を伺いたい。

いたしましては、なかなかそれはそういふわけにも参らぬという実情もござりますので、それではあこういう道もあつていいじゃないか、だから実際問題としてその問題が十分に達せられれば、これは働く余地が事実上なくなるという実際的な結論になるだろう。そういう方向には、われわれといたしましても、できるだけ指導はいたしたいと考えております。

○政府委員(正示啓治郎君) ただいま左藤委員の御指摘の点は、まさに私どもは同感に考えております。行政の運営が多少なおいろいろ円滑を欠くような点がござりますれば、これは是正して参りたい。そして合理的な、また必要な適当な資金はこれを確保していくよう、中央地方を通じまして行政の能率化をはかつて参りたい、かように考えております。

○左藤義詮君 大蔵省がそういう点に非常な努力をするとしますれば、私はその成果を見た上でいいと思うのでありますて、今すぐに政府資金よりも高利な公庫の短期貸付を認めて、何か公的機関が重複するようなことをすることは、もう少し様子を見てからいいと思うのですが、これは私の意見ですが、本来、こういう公庫の設置のときの趣旨が、公庫法の第一条にもありますように、低利かつ安定した長期資金の貸付でありまして、それも低利の政府資金の補完的な意味だったと思うのでございますが、その点どうでございましょうか。

○政府委員(小林與三次君) これは、公庫の趣旨は今仰せられました通り、要するに長期かつ安定した資金を出するが本旨だらうと存じます。そこでこ

ざいますから、そういう仕事をやりなが
がら、しかし実際の運転上一時借り入
れの必要もあることも明瞭でございま
すから、それを補完的にやるというこ
とは、それは一向にかまわない。公庫
といいたしまして、公営企業の健全な発
達、運営を最も念願しておるのでござ
いまして、それにつきましては、長期
資金の問題もあれば、一時資金の問題
もあるのでございまして、そういう長
短両方の資金が円滑に入つて低利に動
くということが基本だらうと思うので
ございます。

それからなお、この一時資金の問
題につきまして、政府資金が百ペーセ
ント動けば問題ないというのは、公営
企業だけの問題でございません。一般
会計につきましてもそういう問題が現
にあるのでございまして、一般会計に
おきましても、現在見ておりますとい
うと、三十二年度の上期の末では総体
で二百三十億ほどの一時借入金を公共
団体がやつております。そのうち政府
資金にいっておるのが百二十二億で約
半分、その五四%です。あとやはり
百七億は、四十六%くらいですが、銀
行その他の金融機関にいつておりま
す。われわれといいたしましても一般
会計ならおざら安い金で借りました
い、そういう念願を持つておるのでござ
りますが、この点につきましては、
政府資金の方の格別のこれは御配慮を
願わぬといかぬとともに、地方団体と
しても、手軽に借りられるようになつ
十分検討していただきなくちやならぬ
問題があります。要するにそ
ういう総体の数字があるのでございま
して、その場合に政府資金が優先的に
動くことを一番念願し、しかしながら

ら、なお銀行その他に現実に借りておる以上は、そういうものの振りかええませんが、少くとも公営企業につきましては、公営企業公庫としてこれは自らの道を開いておくということは、一般的にかなうゆえんじやないか、こういうふうにわれわれとして考えておるのをございます。

○左藤義詮君 今の問題、一般会計との関係について大蔵省の……。

○政府委員(正示啓次郎君) まず第一の点でございますが、御指摘のように第一条の公営企業、先ほど私も読み上げましたが、公営企業の地方債につきましてと、いうふうにお定めになつております。そして第十九条に業務の範囲を、この第一条に掲げる目的を達成するため、地方債の資金の貸付と、また証券の発行による地方債の応募、そして第二項に、前項第一号の場合において、起債の前貸しをいたす――どこまでも起債ということを中心いておることが、この現行法の建前になつておるというふうにわれわれは承知をいたしております。従いまして、やはりその点につきましては、先ほどの左藤委員のお話の通りに考えております。

次に地方団体の一般会計を含めまして、政府資金をさらにも回すべきである。この点も全く同感でございます。公営企業よりも一そその点は一般会計についてそういう必要が多いと考えております。現に昭和三十三年度の地方債は全額政府資金で消化をする建前になっております。これらの点も、われわれとしてはその線に沿いまして考えておる次第でありまして、将来とも

に、中央地方を通じまして、この親類等の資産等については、「そう地方団体とその窓口」とが常に緊密な連絡をとることによりまして、必要な資金を必要とする時期に流す、こういうふうに持つておきたいと考えております。

○左藤義謙君 もし公営企業金融公庫に短期貸付を行わせるといたしまして、長期貸付と違った資金源が必要になりますのはずであります。公庫は民間の金融機関のように預金は扱っておりませんし、政府資金のような余裕金もないのですが、そういう公庫が短期資金をどうして調達せられるのであるか。三十三年度の公庫の資金計画書を見れば、それでも長期計画とこれと至る前貸ししか予定しておらないようですが、われわれ思われるのですが、無理に短期貸付を行いますと、二つのどちらかに食い込まざるを得ないとわれわれは思うのであります。いかがでしようか。

○政府委員(小林與三次君) 今お話を通り、本年度の予算は短期貸付を予定していないのは事実でございます。従いまして、短期貸付をほんとうにやるために、短期貸付のための特別の資金があつた方が望ましいという理屈は、当然成り立ち得ると思うのですが、しかし、必ずしもそうでなくとも、この公庫の長期資金というものは、當時全くからっぽに運転できるかと申しますと、そこはやはりおのづから時間的のズレというものが事実上生ずるのでござります。そういう場合に、長期資金の目的を十分に充足させながら、なおかつ資金的ゆとりがあれば、その際に一時貸付の需要があれば、そこに活用したらいいじゃないか、こう

いうことは、私は道としては考えらへませんが、銀行に遊ばしておくよりも、そういうふうに補完的でありますし、全く補助的かもしませんが、活用した方が、公庫としてもそれは有用な活用じゃないか。われわれといたしましては、そういう程度にこの問題を考えておられます。

たような長期の安定した低利資金を保するという使命を国会においておめになつた法律にうたつておる。そしてその線に沿うて資金の手当がされ、金融というものの本来の性質から申まして、非常に危険なことではない張するということは、きわめて私はあります。そこで、だんだんつき詰めていきますと、そういう資金はそじや政府資金を出したらしいじやなかというところへもし話がきますと、これは今申し上げたように、政府資金をストレートに貸す場合には一錢八で出ますが、公庫がコストを入れてしまふと、どうしても割高になります。そういうことになりますと、地方公共団体の財政を長期にわたつて安定するため、公庫は低利の資金を確実にするのだということでスタートした。庫の本来の使命にむしろ逆行するよなことになりますて、やはりそこころは低利資金はストレートに、何コストを加算しない金利で使う、ういうことにいたさないと、やはり矛盾していくよう思います。

四

だと思うのであります。が、短期貸付をすることがありますと、おのずから個々の団体、個々の会計について収支の状況を十分検討したり、あるいは金額をいろいろ審査しなければ、適正な業務の遂行はできないと思うのであります。しかも、これは短期貸付でござります、また、うつさへ出でない限りは、

けの私は問題だらうと思うのでござります。そこでござしますから、特別にこの発行限度額でも大きくしてやるとすれば、それだけ業務量がふえますから、今の陣容で足りるか足らぬかといふ問題は、私は起り得る可能性はあるかと思ひますけれども、今日の段階に至るまでは、とうとう問題に陥ら

いう規定が入ったのだから事務費をふやせ、人件費をふやせと、必ずくるのであります。きょうの速記録は私は大事にとつておきました、来年度の予算要求のときは大臣に見せたいと思いまですが、私は今財政局長の言つたようなことを予算の査定のときに申すわけでござります。どうか一つそうちふうを貸し付けるようなときで事務費も足らずに無理付けるということは許さないで、それを貸し付ける以上は、十をしまして、間違いのないのを聞いていくという建前でぬと考へております。

に、少い人員
一しても食し
れない。およ
分調査をいた
ところで貸付
なければなら
きたのであります、政府の意見をお
れわれはお聞きしたい。各省のてんて
んばらばらの御意見は聞きたくない
いうことを午前中にも申し上げてあり
ます。それで聞くところによりますわ
けで、その問題で何か協議をされてお
る、こういうふうなことであります
が、それについて何かお話をございきま
す。

しまつから、貸し出しとか回収とかしないことが非常にひんぱんに行われる。ロスも出やすいというふうに考えられるのであります。この経費の面について、あるいは人員の点について、今の既定予算で短期貸付が果して行われるかどうか、いろいろな困難が出てこないか。今まで二つ、一つは

いのでございまして、要するに資金的なズレというものは、起債の許可とそれから公募債の発行の時期と、それから引債を許可ましても、それぞれの団体の事業についての資金の需要と、そういうものとが百ペーセントマッ

にやつてくれと……。ところが絶対で
きない。そういうことをやると、必ず
貸付は廃止になつて間違つたことをや
るから、どうか必要な人間をあやして
くれ、事務費をふやしてくれ。これは
当然のことである。そして私どもとし
まつて、もう銀行に預けること

側でこういふ意見というも
うことをお聞
政府委員で、
○政府委員(小林與三次君) 今、大蔵省の政務次官と自治庁の政務次官が、官房長官のところへ行つて相談しておられるはずでござります。どういうふ
て……。

ないか、経費の面においても資金の面においても、また貸付金利の面からいいましても、これはやはり私は当然に、政府部内において予算編成と関連して十分検討の上で、これはやるか、やらぬかきめるべきものである。今日の既定予算の中では非常な無理が出てゐるのです。両者の御意見を伺いたいと思ひます。

○政府委員(小林與三次君) これは短時間付でござりまするが、どうぞやるかと、こうへう聞

チすれば、これはゆとりが全然ないということになりまして、必ずしもそういうわけにいかぬ、現実にゆとりがあり得る。そういう場合に、單に銀行に寝かしておくということは、むしろ公庫としては私は拙策だらうと思います。そういう場合に、銀行に流すよりも、活用する道があれば道によつて活用したらしい。そしてそれが特別に、そのために何も公庫として特別な人も要らなければ、特別な金もたくさん要

と、短期貸付と同じ手数だということは絶対あり得ません。銀行に預ける方は向うから取りにきてでも預かってくますが、貸し付けるときには、無責任に右から左に貸し付けるということはできるはずはございません。そこでやはり調べなければならぬのでござります。調べるということになると、どうしても事務費、旅費がかかる。人間も増さなければならぬということに

たれそれ大臣の補佐をどうようなことはないのですから……。こもごも立つて言うことがこもごものことと書っている。それで、われわれに何をこれは仲間でもせいといふのですか。一向何のこれは連合審査だか私不思議にしてわからない。何かこういうことはこの前数年前にやはり突如あつて、盛んに口述を聞いたことがあると思ふのですがね。この際どなたが政府を公表して、いるのですか、まつきりしても

うになつて、とんだつづれるかをし
せんが……。
○委員長(小林武治君) ちょっと速記
をやめて下がつ。
〔速記中止〕
○委員長(小林武治君) それでは速記
を始めて。
他に御質疑ございませんか。——御
発言もないようありますから、本審
査会はこれにて終了することに御
異議ございませんか。

題にからんでくるのでござりますが、公庫のどうせ資金は、出資金十億と公募債の発行額が八十億限度と、これはきまつております。要するにこれが公庫としての活動のこれは限界点でござります。

らぬ、そういう事務の運びは、私は十分工夫をやればできる問題でございまして、この改正によつて直ちにどうこううといふ、経費面におきまして、機構面におきましても起ることは考えておつゝ、

なりますので、予算がふくれてくるわけでござります。私はそういう意味におきまして、今お話しのありました点は、おそらく三十三年度における予算の増額が困難でありますから、今のよ

いたい。速記をとつて、国会の経費、
よけいかけるなんということとは、大臣が
省だつて好まないことだ。はつきりして
もらいたい。どなたの方がレギ
ラーで、どなたが補佐なんです。委員

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
○委員長（小林武治君） 御異議ないと言
めて、さよう決定いたします。
これにて散会いたします。

す、そのワク内において働くという問題でございまして、われわれといったましては、少くとも地方団体を相手にして働く公庫だけは、最も理想的に経営管理をやってもらいたい、というので、非常に人數も少し、そうした管

○政府委員(正示醫次郎君) どうも両方でこう意見を戦わすと非常に苦いのとございますが、実は財政局長は、来年度予算を要求してきたときああいふことを言えど非常にいいのですが、おそらく予算を要求にくるときは、こうおるのでござります。

うなお詫び出ると思しますが、本来はさようではない。また、そういうことでは非常に危ない。およそ資金の貸付というふうなことは、さような疎漏な建前で行われてはよくないのであります。これはどこの出資金にいたしましても、また公庫に対するこの債券の発行による資金にいたしましても、全く公けの金でございますから、その金

長しがるべく、勝手なことを言わぬで、政府の委員は統一的に言われるうにしてもわんと、われわれ連合査はできません。ここは各省の出先機関の仲裁裁定をやるところではないのですから、そういう意味の議事進行をお願いします。

起中　をの機審より

昭和三十三年三月二十九日印刷

昭和三十三年三月三十一日発行